

自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(美術)
／岩佐 博久

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

1. 近年教員採用試験で重視されている教育時事(教育改革の理念や学習指導要領の改善事項、新しい教育課題への対応等)について、具体的な取り組み事例を入れるなど講義資料の充実を図る。
また、教採対策ガイダンスでは個人面接や場面指導など相手に応じた説明力や対話力、豊かな表現力等を高めることができるよう、実技や演習の形態を多く取り入れる。

2. 点検・評価

1 教職教養、教育時事の講義内容や演習問題を最新のものに改善し教採対策ガイダンスを実施した。。特に本年は「今後の学校におけるキャリア教育の在り方について(2011.1.31中教審答申)」、「生徒指導提要」、「教育振興基本計画」等、新しい国の教育施策について重点的に取り上げた。これらは2011年度実施教採の筆記問題や面接問題でも多く取り上げられており、対策として効果があった。
2 実技ガイダンスの内容に本年度から新たに場面指導を取り入れた。場面指導が課される大阪市、神戸市、兵庫県、愛媛県などの二次対策では生徒指導 対応、保護者対応等などについて、臨機応変の応答ができるよう実技指導を行い、成果を上げることができた。
3 論作文指導については、受験地ごとの形式や出題傾向に応じた個別の添削回数、添削時間を増やすことで作文表現力を向上させることができた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

1. 教員採用試験(審査)において学校教育学部生の正規合格者55%以上を目指す。
2. 学校教育学部生の教員就職率70%以上を目指す。
3. 教採対策ガイダンスの内容・使用資料等を検討・改善し、その充実を図る。
4. 各都道府県・政令市の教員採用試験の方法や内容を分析し、学生への相談に応じる。
5. 教員採用試験に課せられる一般教養問題、教職教養問題、集団・個人面接、模擬授業、場面指導、論作文、自己PR文等の指導の充実を図る。
6. 臨時教員希望者に対する説明会、個別のガイダンスの充実を図る。
7. 大学院生の教員就職率向上のための取組の充実を図る。

2. 点検・評価

- 1 教員採用試験(審査)において学校教育学部生の正規合格者は52%であり、目標値をやや下回った。
- 2 教員採用試験(審査)において学校教育学部生の合格状況については、兵庫県では減少したものの、徳島県をはじめ、香川県、大阪市、愛知県、岡山県などで増加した。また、学校教育学部2011年3月卒業生の教員就職状況は、臨時教員就職についての働きかけを行ってきた結果、9月末時点で77.9%となり、前年度に引き続き教員就職率全国一を達成することができた。
- 3 教採対策ガイダンスの内容・使用資料等については、使用テキストの改訂、実技ガイダンスにおける場面指導の導入等、改善を図ることができた。
- 4 本年実施の各都道府県・政令市の教員採用試験の出題内容等について、受験者から多くの報告が寄せられた。この報告書は次年度教採を目指す学生・院生にとって貴重な情報となっており、十分活用されている。
- 5 6月末の教採対策ガイダンス直前編実施以降、各自治体ごとの採用試験の実態に合わせた直前対策、二次対策をきめ細かく実施することができた。ただ二次対策は8月中旬から下旬に集中しており、この間の教採対策スケジュールが過密となり、実施場所の確保、面接官の確保が厳しく、まさに綱渡り状態となった。
- 6 不合格となった学生の臨時教員への就職希望が多いため、臨時教員希望者に対する説明会を実施した。個別の相談にもきめ細かく対応することができた。今後も未就職者の個別の相談について引き続き当たっていく。
- 7 大学院生の教員就職率向上のための取組として、本年度初めて大学院生就職研修会を実施した。これに伴い教採対策ガイダンスへの出席率が向上しており、大学院生の教採対策への意識が高まった。

II-2. 研究

1. 目標・計画

1. 学校教育学部における教員就職状況の追跡・考察を行い、今後の教採対策に役立てる。
2. 教員就職希望の多い都道府県・市の教育委員会の訪問、説明会の開催などを通して、教員採用方針や今後の採用状況の動向について把握する。
(以上の研究は、教員就職率の向上に資する上で重要なものである。)

2. 点検・評価

- 1 合宿研修や情報交換会に招聘した卒業生からの聞き取り、教育委員会訪問時における本学卒業生の勤務状況の聞き取りなどを通じて卒業後の教員就職状況の把握に努めた。また、正規教員、臨時教員として勤めている卒業生が就職支援室を訪れることも多く、その者からの情報を教採対策に生かすことができた。
- 2 11月中旬以降、徳島県をはじめ、次年度受験希望の多い20の自治体の教育委員会の訪問し、次年度の採用方針や採用状況の動向等について把握することができた。

II-3. 大学運営

1. 目標・計画

1. 就職委員会及び学生支援委員会委員として、本学の運営に貢献する。

2. 点検・評価

- 1 就職委員会委員として教採実技ガイダンス、二次対策ガイダンス等において、模擬授業、集団面接、個人面接、場面指導等の最新の情報を準備・提供し、効果的なガイダンスを進めることができた。
- 2 学生支援委員会委員として、学校教育学部2年次生合宿研修において講義、演習等を行い、学生の就職活動についての意識を高めることができた。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

1. 附属学校での教育実習前に「教育実習と教員採用試験との関係」についてガイダンスを実施し, 教育実習の重要性を認識させる。
2. 附属学校授業支援アドバイザーとして, 附属学校教員の指導力向上について指導・支援するとともに学生の実地教育について就職支援の立場から連携して取り組む。

2. 点検・評価

- 1 附属学校での教育実習前に「教採対策ガイダンス(準備編)」を実施し, 教員採用試験における教育実習の重要性について意識を高めることができた。
- 2 教員採用試験において, 指導案作成, 単元指導計画作成, 模擬授業, 場面指導等が実施されることが多いことから, 教育実習におけるこれらの指導の在り方について, 附属学校と連携して取り組んでいくことができた。
- 3 平成23年度教員研修留学生研修プログラムに係る講師として, 「日本の文化」の授業の一部を担当し, 「日本教育課程」についての講義を行い, 留学生 に対し, 我が国の教育についての理解を深めることができた。(留学生8名対象)

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

平成23年3月学部卒業生の教員就職率が前年に引き続き全国第一位を達成することができた。昨年benesseが大学進学を考えている児童生徒や保護者に「大学を評価する視点」を調査したところ, 1位に「進路／就職支援の面倒見がよい」を挙げた。(大学選びのポイントは教育力より「就職力」benesse教育ニュース2011/2/14)
高い教員就職率を維持することができたことは, 今後, 本学が教員を目指す優秀な学生を確保していく上で多少なりとも貢献できているものと考えている。